

6月11日学区内火災における住民・署・団の動きを“情報共有”

左京消防団松ヶ崎分団 芝山宗昭

明けましておめでとうございます。松ヶ崎学区は6月11日昼、約6年ぶりの火災を経験したものの、その他の災害出動は、「閉じ込め者救出活動」などの小さな案件が数件で、総じて平穏な一年でした。団内部では健康不安や業務多忙を理由に5人が退団したものの、地域共生の志ある40代5人が入団し、防災訓練や予防活動に加わってくれているので、団員共々安堵している。

さて、住民の皆さまは消防車のサイレンを日に2、3度(以前に比べて倍程度頻繁に)耳にされているではありませんか。実際の火災発生はここ数年、低頻度横ばいなので、原因は、消防局(消防署)側の広域運営および被害大きめに見積もって十二分の力で消火しようとする新方針に拠るものであろうと思われる。6月11日の火災において、局・署の動きが具体的に見え、住民の熱い活動を知ることができたので、団員の動きと関連付けながら、「災害情報と減災活動情報」を住民の皆様と共有したいと思います。

住民・署・団3者毎の動き/事実経過: ①通行人や南側の喫茶店主が、アピカルイン西、河原田町内住宅から煙が出ているのを発見し、119番通報した(消防局に繋がった)。ゴルフパートナー(ゴルフ用品店)の店員やアピカルインの支配人らが消火器を持参して消火を試みた。家内に燃えやすい小物が多数あり、燻ぶって可燃性ガスが生じたためか、爆発音を伴って火災が放出された。初期消火を断念、この間、約5分が経過。②消防車1台が到着し、放水を開始。その後の2、3分で、数台の消防車が到着し、前後左右から放水した。火勢は急速に弱まった。③左京消防署から分団長芝山に出動要請電話があったのは、通報から約5分後。副分団長4人に電話するものの3人は学区外勤務中、学区内に居た下位団員数人に招集を掛けた。④現場到着の先頭は芝山であったが、通報から既に10分が経過。⑤隣接分団からの応援約10人、当分団の後詰め数人も加わり、総勢20余名で消火活動区域設定(署員の消火活動の邪魔にならないように通行止めや迂回指示をする事)を行った。

類焼もせず、半焼に留まったことの功績: ①住民の早期通報、②広域運営による多数消防車の迅速到着、が功を奏した。広域運営とは、火災通報を消防局で受け取り、複数行政区の消防署に、同時あるいは順次の出動指令を出すこと。今回の火災では通報後5分~10分で1~10台の消防車が左京区および近隣行政区から到着し、2時間後の交代部隊は桂や伏見など遠隔行政区からであった。

団からのお断り: 消防団員は自営業が少なく、遠隔地勤務サラリーマンが増えているため、即応できる人数に限りがある。出動指令が、局/署の2段階経由で来るため、従来よりも2、3分遅い。消防服に着替えて現場に向かうので、消防車到着より数分遅れ、通報者の目から見れば、概ね10分後となる。遅いように見えるが、平常時の市街地火災における消防団の任務は、立ち入り制限を掛けることや火事場泥棒への警戒であり、早さが最重要ではない。住民の皆さまにはこの点を十分にご理解頂きますよう、お願いいたします。

消防分団活動に一層のご支援ご協力を

松ヶ崎消防分団後援会 会長 三宅秀典

謹んで新年の御祝詞を申し上げます。皆様には御家族お揃いで輝かしい新年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。昨年も又、各地で地震等々大きな災害が発生し多くの命を奪われました。当学区では6月に1件の住宅火災が発生しました。可燃物の物品が多くあった為か、爆発的に炎上しましたが発見通報が早かった為、幸いにも類焼は免れました。一方、近年増加傾向にありました火災報知器の誤作動による出動は3件と例年の半分程度で終える事ができました。燃えやすい物を家の周りに置かない。内に貯めこまない。火災報知器、警報器は定期的に点検を続けて頂きたいと思っております。分団員も体力、勤務上の理由から5名の退団者がありましたが、新しく同数の新入団員を迎えることが出来ました。各地で団員不足が叫ばれております昨今、松ヶ崎分団は常に団員定数が確保され続けて参りました。このことも地域の皆様方と団員御家族の深い御理解の賜物と深く感謝申し上げます。本年も学区の無火災を目指し、分団を先頭に地域の安心、安全確保の為の活動を展開して参ります。引き続き分団の活動に御理解と御協力の程よろしく御願い申し上げます。

松ヶ崎消防団員の状況

消防団員は、年に数回の突発的な災害出動の他、火災予防広報や訓練などを含めて約40回(幹部は約80回)の出動義務がある。年額4万円の報酬が出るものの、社会奉仕の気持ちが必要なければ勤まりにくい仕事である。平成10年頃には松ヶ崎分団でも入団希望者が途絶え、高齢化の波が押し寄せていた。その数年後、オープン気質の小学校長、郷土愛地元OBが構成する学校運営協議会、活性化されたPTAがうまく機能し始め、地域活動に目覚めたPTAのOB(おやじの会会員)が入団するようになった。同じころ、余力を残して会社を退職した2、3人も入団。前分団長から始まった民主的な団運営、現分団長から始まった震災や水害を想定した訓練などが功を奏して、多彩な人材が入り、活力のある団に変身しつつある。以下、データでお示する。

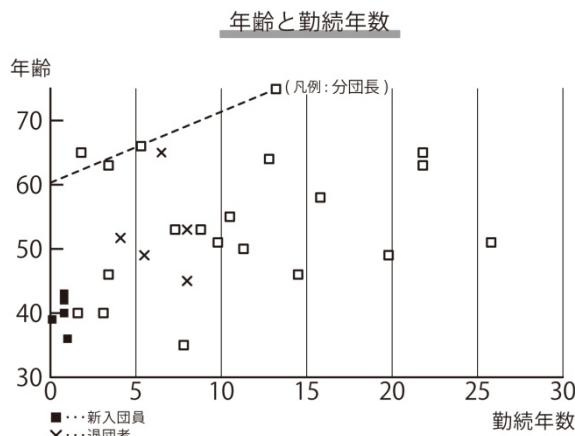


図1

図1は、団員の年齢と勤続年数を口印で示している。分団長の例では、62歳で入団して約13年経過して29年1月で75歳になったことが分かる。分団長も含めて60歳以上が7人居るが、その中の4人が定年退職後の入団者(リタイア組と呼ぶ)。年齢が40歳~55歳で、勤続年数10年以下の団員におやじの会出身者が多い。■印は昨年入団の5人で、39歳~43歳の元気盛り。参考に昨年退団の5人を×印で示した。その中の4人は職場環境の変化により退団されたケース。残りは59歳で入団され、密に勤務して部長職に就き、健康不安を理由に65歳で退団されたケースである。“入りやすく、辞め難くない分団”の証明と言えましょう。

図2では団員の過去を含めての職業を示している。システムエンジニアやグラフィックデザイナーなどの技術者が7名と最も多く、花・雑貨など小売り卸が4名、料理や旅行サービス2名、大企業の取締役や小企業の社長職2名、市会・府会議員経験者も2名と多彩。

業界分野の図3では、情報通信業界が4名と最大、衣料雑貨・保険・広告業界が4名、花・植木・獣など農林業関連が3名など、広い分野に亘っている。

有能・多才な人が集まっているため、図4に示すように、職場が市外であったり、海外出張の続く団員が7名、市内だが学区よりも遠い団員が6名。学区近辺で働く団員は半数以下の12人である。平日の昼間に起こった災害時には、12人の中から、たまたま、自宅近辺にいる団員を選抜しなければならないのが松ヶ崎分団の泣き所。リタイア組団員を更に増やす必要がありそうです。

職能的専門性 (現役時代を含む)

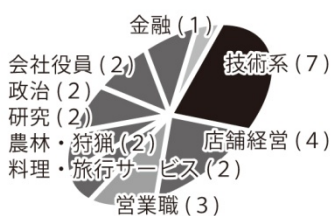


図2

所属業界 (現役時代を含む)



図3

主な勤務地

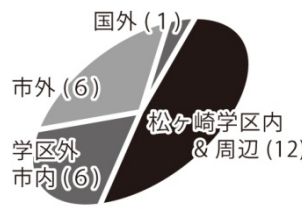


図4

身近な防災訓練を目指して！

松ヶ崎学区自主防災連合会 会長 中島熙泰

あけましておめでとうございます。希望に満ちた新しい年を迎えられました事と心よりお慶び申し上げます。

昨年は地域の集合場所と学区の避難所の看板を、各々の指定場所に設置させていただきました。

高齢化社会が進む中で有事の場合は各自が自助・共助のもと、無事に避難できますように大きい目の看板にしました。

設置先の方には快く承諾していただき、ありがたく感謝申し上げる次第です。

自主防災は町内で、各自で育て活動していくものであり、そのお手伝いをしているのが自主防災会のメンバーと思っております。

学区の皆様には自分たちの命は自分たちで守る事を念頭に、防災防火に大いに関心を持ち、今後の訓練等に積極的に参加いただき、自主防災会に対する叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます。

町内会で訓練を考えられておられましたら、気軽に相談していただき、共に防火防災に取り組んで、安全・安心な町内会のお手伝いを目指していきたいと考えております。

これからも松ヶ崎消防分団のご指導・ご支援を得まして災害等に強い町作りを目指し、学区民の皆様方と共に頑張っていきたいと思っております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

災害に強く、安心して住み続けられるまちを目指して

左京消防署 署長 村林 幹夫

平成29年の輝かしい新春を御健勝にてお迎えのことと、松ヶ崎学区の皆様にご挨拶申し上げます。

日頃より消防行政の推進に格別の御支援御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も全国では台風や地震などの自然災害により大きな被害をもたらされましたが、最大1.4メートルの津波を記録した福島県沖地震では、6年前に発生致しました東日本大震災の記憶が蘇るとともに、海洋型地震の恐ろしさを再認識致しました。

我がまち京都では、187年前に発生致しました文政京都地震以降、地震による大きな被害の発生はございませんが、熊本地震をはじめ鳥取県中部地震など度重なる地震の発生を見ますと、西日本は今まさに地震の活動期に入っている状況であると言えます。

このような状況の中、左京消防署では、自然や歴史と文化に彩られた魅力あふれる左京区内にお住まいの皆様をあらゆる災害から守り抜くため、防火の呼び掛けはもとより実践的な防災訓練などの取組を通じて、出火防止と地域力を活かした「いざという時に自ら考え行動できる人づくり・地域づくり」を推進して参りました。

今後とも左京消防署では、左京消防団の皆様とともに、地域の皆様としっかりと連携し、「災害に強く、そして、安心して住み続けられる『安心都市・京都』の実現」に全力で取り組んで参りますので、引き続き、御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたりまして、松ヶ崎学区の今後益々の御発展と火災のない災害に強いまちづくりが一層推進されますことを心から祈念致しまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

新入団員の紹介



兵田 大和

第1班所属の樋ノ上町 兵田大和(ひょうだひろかず)です。同志社大学院で猟師の立場か編集者:山田 勉ら持続可能な狩猟をテーマに実践研究をしています。獣害が山の防災と密接な関係があることから縁が生まれ、入団させて頂きました。諸先輩方のご厚意とご支援があり、入団一年目が無事過ぎようとしています。ポンプ操法にも参加させて頂き、貴重な経験を積むことができました。まだまだ未熟ではありますが、今後ともよろしくお願い致します。



勝山 典一

平成28年3月に入団しました勝山典一(かつやま のりかず)です。子どもが左京少年消防クラブ所属であることから団の存在は知っていましたが、このたび『松ヶ崎おやじの会』『まっちゃきネットワーク』所属の諸先輩団員から地域にかける熱い思いをお聞きし、熱心な勧誘を受け、入団を決意するに至りました(≒酒席のノリで決めたと笑)。何はともあれ、団での活動やおやじの会等での活動を通じて、地域のためそして子ども達のために少しでもお役に立てればと思っております。皆さまのご指導よろしくお願い致します。



早海 哲司

平成28年3月に入団致しました早海哲司です。娘の松ヶ崎小学校入学に合わせて、4年前に井出ヶ鼻町に引っ越してまいりました。ささやかながら造園業を営んでおります。同じ町内の山田勉部長を始め、諸先輩方に入団を勧めて頂きました。色々な活動や訓練を経験させて頂いたことで、地域の安心安全が、多くの方々の地道な努力によって支えられていることを実感しました。少しでも地域のお役に立てるよう尽力していく所存ですので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



秋吉 秀樹

平成28年4月に入団致しました秋吉秀樹です。松ヶ崎に住んで5年程になりますが、移ってすぐに単身赴任で約3年程松ヶ崎を離れていました。戻ってきてから地域の活動に参加させて頂くようになり、その中で消防団にもお誘いを頂いて入団致しました。まだまだ至らぬ所も多々あるかとは思いますが、地域の活性化にお役に立てるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



後藤 明士

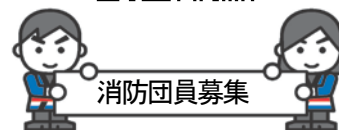
平成28年12月に入団致しました後藤明士(ごとうあきし)です。現在は他学区に住んでいますが、実家は松ヶ崎で、聖光幼稚園・松ヶ崎小学校に通っていました。映像・音響制作に携わる傍ら、行政書士として顧問業務をさせて頂いております。今回ご縁を頂き入団の運びとなりましたが、「人の困ったに答える」をモットーにしている私は、かねてより消防団の活動に興味を持っていました。未熟ではございますが、地域貢献のお役に立てるよう励んでまいります。

左京消防団松ヶ崎分団 組織図

| | 第1班 【東&北東】 | 第2班 【中&南】 | 第3班 【西&北西】 |
|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 団長 芝山 宗昭 | 部長 三宅 勝 (予防担当) | 部長 樋口 晶弘 (教育担当) | 部長 矢野 博敏 (総務担当) |
| 副分団長 西郡 藤夫 (総務担当) | 部長 山田 勉 (警防担当) | 部長 藤井 照夫 (警防担当) | 部長 梅津 康正 (警防担当) |
| 副分団長 京極 康生 (予防担当) | 班長 山田 信推 (予防担当) | 班長 藤井 照夫 (警防担当) | 班長 山田 徹 (総務担当) |
| 副分団長 河村 栄二 (警防担当) | 団員 山田 茂昭 | 班長 島内 研 (予防担当) | 班長 才津 和範 (教育担当) |
| 副分団長 蒔田 桂三 (教育担当) | 団員 兵田 大和 | 団員 板垣 晋 | 団員 佐橋 学 |
| | 団員 早海 哲司 | 団員 佐々木 啓太 | 団員 宇佐美 賢一 |
| | 団員 後藤 明士 | 団員 勝山 典一 | 団員 秋吉 秀樹 |

松ヶ崎消防分団
ホームページ

【松ヶ崎学区自治連合会監修】



三宅祥文様、卯野貴也様、半井達也様、高 靖敏様、今西謙介様は昨年度退団されました。長年のご貢献に感謝致します。